

# 学生新聞

放送大学  
埼玉学習センター  
埼玉CSC交流会  
学生新聞  
編集委員会  
〒330-0853  
さいたま市大宮区  
錦町682-2  
TEL048-650-2611

## 第11回埼玉フェスタは1か月の前倒し 9月9・10日は埼玉学習センターへ 交流を深め、楽しい学びの場に 公開講演会は足立センター所長

今年の埼玉フェスタは11回目となり、例年よりも1か月早く、9月9日(土)と10日(日)の2日間に開催されます。埼玉フェスタは学生や同窓生、教職員が協力しながら交流を深め、その協力によって、埼玉学習センターを楽しい学びの場にすることを目標として毎年、開催している学園祭です。このフェスタは毎年、10月第2週の週末に行われていましたが、今年は秋入学の入学式と重なるため、1か月早くなり、9月開催となりました。

今年のフェスタは1か月の予定前倒しとなったため、例年以上に時間的な制約が多い中、イベント担当の各サークルが競って魅力一杯の催しを企画し、日頃の成果を発表しようと努力しています。また、会員以外の方々の方も楽しんで参加できる学園祭にしようと、関係者は時間を惜しんで準備を重ねてきました。イベントの主な流れは掲載した日程表で把握できますが、大まかな内容は次の通りです。

9月9日(土) 9階の第1講義室では、10時半から熟年会の「勉強会」が開催されます。第6講義室では、12時から音楽サークルの合唱が、続いて13時からは「第九」合同演奏会のDVD映写が行われます。また、8階の講義室では、14時から放送大学・足立学習センター所長の柴眞理子氏の公開講演会「身体表現の力」から「からだは語る・からだで語る」が開催され、引き続き16時から、多目的室にて茶話会が催されます。

9月10日(日) 9階の第1講義室で11時50分から、サークルおみやによるフェスタ恒例のDVD鑑賞会があります。今年も映画「沈黙」が映写されます。8階講義室では10時から朗読の会「こころ」による朗読劇「一銭五厘の旗」花森安治作の茶席が設けられ、俳句・川柳大会もあります。9階ロビーには、お馴染みの茶席が設けられ、俳句・川柳大会もあついであります。(冬木)

そして今や、埼玉フェスタ恒例となったジャズ演奏会が、今年も15時15分から8階講義室で催されます。ジャズの生演奏は、最後の懇親会パーティーでも例年同様に、華やかに場を盛り上げるものと期待されています。

2日間共通のイベントとして、各団体の活動の展示(第2講義室)、バザー(第3講義室)、個人作品展示(第4・5講義室)が予定されています。9階ロビーには、お馴染みの茶席が設けられ、俳句・川柳大会もあついであります。

事務室からのお知らせ  
卒業証書・学位記授与式  
平成29年9月24日(日) 午前11時から、埼玉学習センター講義室において、平成29年度第1学期の卒業証書・学位記授与式を行います。また、当日生涯学習奨励賞の授与も行

平成29年度第2学期の入学者の集いは、10月8日(日)午後2時から埼玉学習センター講義室で開催します。

平成29年度第2学期の面接授業の空席発表  
平成29年度第2学期の面接授業の空席発表は10月14日(土)12時で、学習センターでの掲示、キャンパス・ネットワーク・ホームページでお知らせします。また、10月20日(金)15時以降は、システムWAKABAで確認できます。なお、追加登録期間は、10月20日(金)までとなります。

面接授業の空席発表  
平成29年度第2学期の面接授業の空席発表は10月14日(土)12時で、学習センターでの掲示、キャンパス・ネットワーク・ホームページでお知らせします。また、10月20日(金)15時以降は、システムWAKABAで確認できます。なお、追加登録期間は、10月20日(金)までとなります。

### 特別公開講演会 「身体表現の力 ～からだは語る・からだで語る～」

表現の原初的な姿は身体表現にあり、私達のからだは言語の獲得以前も以後も、自己の内面を雄弁に語っている。

講師：柴 眞理子  
放送大学  
足立学習センター所長



9月9日(土)  
14:00~16:00

場所：放送大学埼玉学習センター  
8F講義室(申込順：150名)  
申込は以下のHPから  
<http://www.sc.ouj.ac.jp/center/saitama/>

### 第11回埼玉フェスタ 俳句・川柳投句募集

- 募集期間 7月1日(土)~9月7日(木)
- 応募資格 放送大学の学生、卒業生、教職員
- 優秀句の決定 フェスタ会場での投票
- 優秀句には賞品を授与
- 投句方法 募集要領による  
是非、あなたの一語を!

#### 学生研修旅行について

平成29年度第2学期の面接授業の空席発表は10月14日(土)12時で、学習センターでの掲示、キャンパス・ネットワーク・ホームページでお知らせします。また、10月20日(金)15時以降は、システムWAKABAで確認できます。なお、追加登録期間は、10月20日(金)までとなります。

9月9日(土)	第1講義室	10:30~12:30	熟年会 公開勉強会
	第6講義室	12:00~13:00	音楽サークル 合唱
		13:00~14:10	「第九」合同演奏会 DVD映写
	8階講堂	14:00~16:00	特別公開講演会 「身体表現の力 ～からだは語る・からだで語る～」 講演者：足立学習センター所長 柴 眞理子
	多目的室	16:00~	茶話会
9月10日(日)	第1講義室	11:50~14:20	サークルおみや DVD映写会 映画「沈黙」
	8階講堂	10:00~12:00	朗読の会「こころ」朗読劇 「一銭五厘の旗」花森安治 作
		12:00~13:45	健康体操研究会 健康体操
		13:45~15:00	ソシアルダンス
		15:15~15:45	ジャズ演奏会
		16:00~17:30	懇親会パーティ
		16:15~16:45	ジャズ演奏会
	多目的室	15:45~16:00	歌声広場
	実習室	12:30~14:30	熟年会 パソコン教室

### 『オペラ彩の34年 ～ときめきと共に～』 福盛田恵子

今年の公開講演会シリーズAのテーマ「芸術は人間を救うか?」に関心をもった私は、6月25日(日)上記講演会と茶話会に参加しました。講師の和田タカ子先生は、穏やかな語り口調で、ご自身の生い立ちやオペラとの出会い、オペラ公演を続けられた経緯とその折々の深い想いを語ってくださり、更に、これまでのオペラ公演での感動の名場面を映像で紹介してくださいました。山形県で生まれた和田先生は、小学校1年生の時に、当時、通学していた東京の小学校でピアノに触れて、その魅力に惹かれたとのことでした。入社した出版社で、日本の文学発展のために働いている方々や幼児教育に情熱を燃やし続けている方々の後ろ姿に学んだ事が、その後の活動の根っこになっていると話されました。ピアノ教師を経て、子育てをしながら声楽の勉強を始め、希望した声楽の道に入ったそうです。34年前、文化・芸術の香る街にしようと朝霞オペラ振興会を発足。自主制作によるオペラを連続して毎年上演。20周年を機に「オペラ彩」に名称を変更し、グローバルな活動を開始。クオリティの高い音楽を提供し、芸術文化の振興に寄与することや、音楽家の発掘・育成を目指して活動を展開してきたとのことでした。活動の中で出合った方々は、今、日本の音楽の中枢として活躍していると自信を持って話されました。社会貢献事業として取り組んでいるオペラ「泣いた赤鬼」の移動公演では、保育園の1歳の子供も注目して観るとのことです。上演作品の選定、スタッフやキャスト、指揮・演奏の依頼、助成や協力を得る事等、並々ならぬご苦労の連続だったようです。和田先生の、困難を乗り越えてきた、そして、これからも乗り越えようとなさっている溢れる情熱と努力の積み重ねに感動しました。その情熱と努力に、ときめきに、再び学ばせていただきたく、7月21日(金)和光市駅前音楽レストランでのオペラ勸進「和田タカ子 歌と芸術よもやま話」に参加しました。お話のテーマは「トゥーランドット」キャストが決まりました。オペラ上演に情熱を注ぐスタッフやキャストの熱い思いを作品創造のエネルギーに高めていき、満足していただける作品に仕上げたいと意欲的に話されました。今年の第34回定期公演は、「トゥーランドット」(12月23日(土)・24日(日)和光市民文化センター大ホールで開催)。私はこれまで、劇場でオペラ上演を観る機会がなかったのですが、これを機会に、オペラの魅力を感じてきたいと思ひます。そして、「芸術は人間を救うか?」の問いの意味と答えを、自分なりに探っていこうと思ひます。



「人口減少社会」 菅原誠二  
日本は人口減少期に突入したと言われている。2015年の国勢調査では、日本の総人口は約1億2千700万人に減少し、17年の新人口推計では53年に1億人を割り込むと予想されている。この日本の極めて急激な人口減少は、今後50年間で3割もの人口減に達すると見込まれているからである。この大幅な人口の減少は今後の経済成長にも大きな影を落として、社会・経済の活力が著しく失われる恐れがある。このような労働力の大幅な減少に対して、社会保障制度への不安がますます高まっていく中で、政府の進める高齢者・女性の労働力活用での程度の歯止め効果を生み出すことができるのだろうか。今までの50年間で3割もの人口が減少する」という状況は、これまでの長い日本の歴史の中でも考えられなかった。子どもや働き手の割合が急速に減少する社会を考えた場合、人口減少・少子高齢社会は、年金、医療、福祉、教育などの社会的インフラの存在そのものを、危うくするところになるのではないだろうか。

こうした事態を解消するためには、安心して子どもを生み、育てられる社会の実現が欠かせない。安定した十分な収入が得られる雇用の実現と保育サービスの充実、仕事と家庭の両立が可能な社会の維持と発展、地方公共団体と民間サービスを合わせた施策と環境づくりなど、少子化脱却と人口安定のための具体的実現策を早急に策定していく必要があると思う。

# 投稿コーナー

## 「人と人のつながりから 陸前高田市復興視察の旅へ」 野畑昭徳

平成23年3月11日午後2時46分、私は中学校の教員として職員室にいました。その日は金曜日でしたが、土曜、日曜と次々と甚大な被害が出ている事を報道で知ることとなりました。その1か月後に新入生が入ってきました。私は在学の3年間でこの子たちと共に震災の現実を受け止め、考え、活動することで微力ではあっても復興・支援ができるのではないかと考えました。私は授業でオペレッタを十数年指導していたので、この新入生にはこの震災を風化させないよう、震災をテーマとしたオペレッタの制作に取り掛かりました。そして、1年で「稲むらの火」2年で「希望の木」3年で「ハナミズキのみち」という震災復興オペレッタ三部作を演じさせることができました。「希望の木」と「ハナミズキのみち」は陸前高田市のことを扱ったものでしたので、募金を陸前高田市に贈りたいとの生徒の思いから修学旅行の京都で震災復興オペレッタのチャリティ公演が実現しました。

退職を機会に今までの教育活動のまとめを修士論文で表出したいと考え、放送大学大学院の門をたたきました。折しも、埼玉学習センターの教育に関わるサークルとして「むぎの会」が立ち上がったところで、メンバーに加えていただきました。今年2月18日にはこのオペレッタの内容を「3.11を語る・伝える」の中で発表することができました。

そして、今回はそのPart IIとして「現地を視察する旅を計画しよう」という声が上がりました。幸いにも、前埼玉学習センター所長の菅野峰明先生が陸前高田市のご出身で

計画から実施まですべてに亘って御協力頂くことができました。当日は29名が一ノ関でバスに乗り、陸前高田に向かいました。ここからは菅野先生がツアーコンダクターとなって、この地方の人、地形や歴史を交えながらご説明いただきました。2時間弱で陸前高田の中心部に入り、菅野先生のお兄様である菅野征一郎氏が合流され、普段では立ち入ることのできない米沢商会ビルへと案内して下さいました。所有者の米沢祐一氏が待機されており、米沢ビルの震災遺構としての意義と屋上のさらに上の煙突部分に上がることで九死に一生を得たことを話されました。参加者の何人かはその煙突までのぼり、津波の恐ろしさを再認識したと思います。別れ際、米沢氏から「5年後に来てください。復興した街並みができていると思います。また、このビルからその景色を見てください」と心に残る言葉を頂戴しました。

キャピタルホテル1000で昼食を取りながら、田村満氏（陸前高田自動車学校社長）から社会的な課題を解決する秘策であるソーシャルビジネスについて、石原進氏（日本画家）からは「奇跡の一本松」を描かれ寄贈された経緯等をお話いただきました。

続いて、陸前高田市役所に移り、浅沼ミキ子氏（陸前高田「ハナミズキのみち」の会代表）からご子息を亡くされたことやハナミズキの咲く避難路の建設について、鈴木善久氏（高田松原を守る会理事長）より高田松原再生プロジェクトについて、都市計画課職員の永山氏より復興プロジェクトについてお話をいただきました。商業施設アバッセを見学後、「奇跡の一本松」へ向かい記念写真を撮りました。この一日を振り返って、司会者として帰りのバスの中で参加者一人一人の感想を聞きながら思ったことがあります。それは、「人と人のつながりが復興の要だ」ということです。オペレッタに関わった生徒、その活動を支えて下さった人、放送大学で紹介する機会を与えて下さった人、被災地へ足を運んで下さった人、被災地で語って下さった人、すべてが復興へ導く「人と人のつながり」です。最後に、商業施設の「アバッセ」は方言で「行こうか!」という意味だそうです。また5年後、いやもっと早くアバッセ!



米沢商会ビルの津波到達位置(赤線)

去る7月11日、陸前高田市を訪れた。最初に案内されたのは元の市街の中心地で、そこには被災したまま廃墟と化した3階建てのビルが立っていた。包装資材の販売を営む米沢商会のビルである。あの津波が襲来したとき、米沢祐一社長は店の片づけに手間取って逃げ遅れたため、気づいた時は1階が水没しかかっていた。仕方なく2階、3階、屋上と昇り、更に5メートルも高い煙突のつぺんまで昇りつめた。もはやこれまでかと覚悟を決めた時、海水が引き始めたという。恐怖と寒さに耐えて、翌朝ヘリコプターで救助された奇跡の人である。両親と弟さんは、万一の時の避難場所



米沢商会ビル屋上から市内を一望

復讐計画にもとづいて撤去されてゆく中で、米沢社長は市の計画を断り、自社ビルの再建は全て自己負担で行うことにした。訪ねて来る人に現場を見てもらいたい、数年後には再建されているであろう市の姿を、また見に来てほしいと熱く語った。昼食会場に移動して、二人目にお会いしたのは高田自動車学校の田村満社長だった。田村さんの学校は幸いにも高台にあったため震災の被害は少なかった。教習所は救援物資の集積や配送の拠点として、建物も全国から応援に来てくれた人たちの事務所や宿泊所として、利用することを決断し提供した。今こそ地元への恩返しの時、そして自分自身が事業家として、ビジネスを通して町の再建に貢献することを誓って、社員一同で頑張ってきたことである。

更に市役所の説明会場で三人目の人、「高田松原を守る会」の鈴木善久理事長の話も聞いた。松原の苗木を植林し50年かけて、その進行状況の話だ。話の終りに、「私は今73歳、松原が蘇ったときは123歳になります」と言っていて、「千の風になつて」を朗々と歌い上げた。聞くとも聞くとは大違い、大震災から6年が経過してもはや、見学に行っても地元の人たちに失礼で迷惑だという心配は無くなっている。むしろ訪ねて行って、再建の進む現場を見、災害の規模の大きさと防災の必要性を学び、話し合い、買い物をする段階にきていることを実感した。

共催:本庄市教育委員会 生涯学習課  
「女城主直虎 英知と情愛に生きて -その実像と直虎男性説-」  
講師:山名 美和子 (作家)  
9月16日(土) 14:00~16:00  
戦国動乱の真っ直中の世に、領地と家を守り抜いた女城主がいた。戦国の雄・井伊直政を育てた次郎法師直虎である。その直虎の奮闘と情愛について語る。  
場所:早稲田リサーチパーク内 コミュニケーションセンター(本庄市)  
定員:95名(参加無料、申込順)

《正しく怖がるPart2》第1回 「日本にはなぜ火山が多いのか? -マグマ活動と火山噴火-」  
講師:上木 賢太 東京大学地震研究所 特任研究員  
9月3日(日) 14:00~16:00  
噴火とはどのような現象なのか? 何故、日本には火山が多く分布するのか? -などの話題を通じて、火山噴火について皆さんと議論をしたいと思います。  
共催:放送大学埼玉同窓会  
場所:埼玉学習センター8F講堂  
定員:150名(参加無料、申込順)

## 秋の公開講演会

### 8月~9月のサロン (申込は窓口または☎048-650-2611)

- \* 8月26日(土) 14:00~16:00 「『更級日記』を写本で読んでみよう」 サロン川島 講師:川島絹江 (埼玉学習センター客員教授) 埼玉学習センター8F第6講義室
- \* 8月27日(日) 14:30~17:30 ティークム科学談話会 「水素(続)」 講師:永澤 明 (埼玉学習センター客員教授) 埼玉学習センター8F第6講義室
- \* 8月31日(木) 13:00~15:00 「ドローイングとは何か。描くとはどういうことか」 絵画サロンこざわ 講師:小澤基弘 (埼玉大学教授/埼玉学習センター客員教授)
- \* 9月2日(土) 14:00~16:30 「視覚・聴覚はある種の錯視・錯聴で成り立っている... (認知神経科学の入り口を探ってみましょう)」 サロンはんもと 講師:半本秀博 (埼玉学習センター客員教員) 埼玉学習センター9F第5講義室
- \* 9月15日(金) 14:00~16:00 「戦後中編小説の代表作-さまざま人間観と味わい-」 遠藤周作『沈黙』 サロンしぶや 講師:渋谷治美 (埼玉学習センター所長) 埼玉学習センター9F 第1講義室

### 2学期の学生を募集

平成29年度第2学期の学生を募集しています。出願〆切(大学本部必着)は、第1回が8月31日(木)、第2回が9月20日(水)までです。皆さんの周りに放送大学に興味・関心のある方がおりましたら是非、ご紹介下さい。紹介された



涼風誘う夏の味 鈴木智義

### 朗読の会「いっしょ」

- ★ 8月25日 午前は講師指導でフェスタ以外の稽古
- ★ 9月1日 午後10時フェスタ最終稽古(8F講義室)
- ★ 9月10日 9月10時フェスタ本番(8F講義室)

### サークル案内

★ 9月9日~10日 「埼玉フェスタ」に参加

★ 10月11日(水) 「谷中霊園、朝倉彫塑館の散策」

★ JR日暮里駅北口集合 10時半

### 健康体操研究会

★ 毎週火曜日(10時半~12時) 8F講義室で活動

★ 9月5日、12日、26日 10月3日、17日、24日 31日が活動予定日

### 俳句(つみ草)

夕顔や大工仕事の昼下がり  
煙墨の被曝者名簿炎暑なる  
山国の日照雨の端を糸蜻蛉  
水音の木霊となりぬ蟬の声  
屋上は津波到達標し灼く  
夕顔の群れて傾ぐや月の入  
百合の花爪先立ちのバレリーナ  
夕影や月影失せる闇の中  
夕顔や恋の映画の挽り券  
尺蠖のただ今世路まつしぐら  
鴨の雛大泉水の磯渡り  
夕顔や影を写して微動せる

功 光娥 十詩 明美 由美 順 厚子 陽子 八重子 安代 保子